

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-197241

(P2002-197241A)

(43)公開日 平成14年7月12日(2002.7.12)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマート*(参考)
G 0 6 F 17/60	1 6 2	C 0 6 F 17/60	1 6 2 A 5 B 0 7 5
17/30	1 7 0	17/30	1 7 0 Z
	3 4 0		3 4 0 A

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願2000-396778(P2000-396778)

(22)出願日 平成12年12月27日(2000.12.27)

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

(72)発明者 山中 伸夫

滋賀県大津市中央2丁目2番6号 株式会社滋賀富士通ソフトウェア内

(72)発明者 宮▲崎▼ 光昭

滋賀県大津市中央2丁目2番6号 株式会社滋賀富士通ソフトウェア内

(74)代理人 100095555

弁理士 池内 寛幸

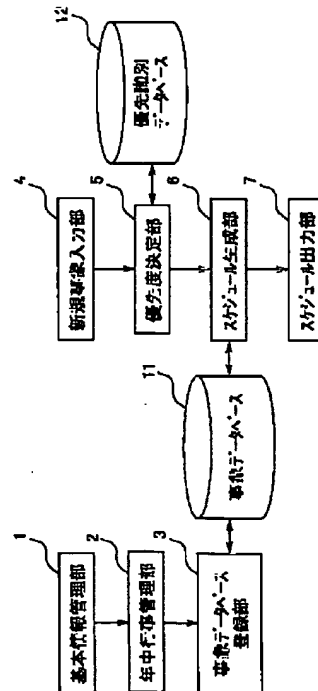
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 秘書業務支援システム及び秘書業務支援方法

(57)【要約】

【課題】 スケジュール作成時における事象漏れを防ぎ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールリングすることができる秘書業務支援システム及び方法を提供する。

【解決手段】 複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理し、基本情報に基づいて年中心事及び生涯イベントを自動的に生成・管理するとともに事象データベースに登録し、新たに発生した事象を入力し、事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成する秘書業務支援方法であって、年中心事、生涯イベント、及び新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位の高い順に自動的にリスケジュールリングを行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理する基本情報管理部と、  
前記基本情報に基づいて年中行事及び生涯イベントを自動的に生成・管理する年中行事管理部と、  
自動的に生成された前記年中行事及び前記生涯イベントを事象データベースに登録する事象データベース登録部と、  
新たに発生した事象を入力する新規事象入力部と、  
前記事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成するスケジュール生成部とを含む秘書業務支援システムであって、  
前記年中行事、前記生涯イベント、及び前記新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、  
前記優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位を算出し、対応時間及び物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については前記所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新し、優先順位の高い順に自動的にリスケジュールリングを行うことを特徴とする秘書業務支援システム。

【請求項2】 前記優先順位決定のために必要となる情報に優先度を含み、優先度が高い事象から順にリスケジュールリングを行う請求項1記載の秘書業務支援システム。

【請求項3】 前記優先順位決定のために必要となる情報に対応時間及び物理的条件をさらに含み、前記対応時間及び前記物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については前記所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新することができる請求項1記載の秘書業務支援システム。

【請求項4】 複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理する工程と、  
前記基本情報に基づいて年中行事及び生涯イベントを自動的に生成・管理する工程と、  
自動的に生成された前記年中行事及び前記生涯イベントを事象データベースに登録する工程と、  
新たに発生した事象を入力する工程と、  
前記事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成する工程とを含む秘書業務支援方法であって、  
前記年中行事、前記生涯イベント、及び前記新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、  
前記優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、

新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位を算出し、対応時間及び物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については前記所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新してから、優先順位の高い順に自動的にリスケジュールリングを行うことを特徴とする秘書業務支援方法。

【請求項5】 複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理するステップと、  
前記基本情報に基づいて年中行事及び生涯イベントを自動的に生成・管理するステップと、  
自動的に生成された前記年中行事及び前記生涯イベントを事象データベースに登録するステップと、  
新たに発生した事象を入力するステップと、  
前記事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成するステップとを含む秘書業務支援方法を実現するコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体であって、  
前記年中行事、前記生涯イベント、及び前記新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、  
前記優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位を算出し、対応時間及び物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については前記所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新してから、優先順位の高い順に自動的にリスケジュールリングを行うことを特徴とするコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、法人や町内会等に代表される団体の役員や幹部等の個人スケジュール管理を自動的に行う秘書業務支援システム及び秘書業務支援方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の秘書業務支援システムにおける担当役員・幹部等のスケジュール管理においては、時間設定を正確に行うことができる予定を各役員等の個人スケジュールとして管理しているのが実状である。

【0003】また、例えば特開平5-266034号公報に開示されている秘書システムや特開平11-203353号公報に開示されている秘書システムに代表されるように、イベント（事象）情報データベースからスケジュールするのに必要な情報を抽出・表示することによって、秘書自らがスケジュールを立案しやすくとともに、スケジュールの中に事象を盛り込んで一つのデータベースとして管理することが考えられている。

【0004】さらに、特開平11-338929号公報

においては、事象の登録時に既存の事象との重複度を算出・表示することによって、秘書がダブルブッキングすることを未然に防止することができる秘書システムも開示されている。

#### 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述したような開示発明においては、いずれも秘書による手作業によって最終的なスケジュールを生成していることから、事象漏れの発生のおそれは潜在的に存在するという問題点があった。

【0006】例えば、特殊な事象や突発的な事象については、注意深く入力することから事象漏れは発生しにくいと考えられるが、年中行事のように恒例の事象については、慣れの発生から事象漏れが生じる可能性が高くなるものと考えられる。

【0007】また、同一人の同一日時に複数の事象が重複した場合、特開平5-266034号公報や特開平11-338929号公報においては、事象の重複状況を表示し、修正を促すことで一つ一つ予定を調整していかなければならない。したがって、誤操作によって、既に参加を表明していた重要な事象についてまで修正してしまったために、相手方に対して礼を失する事態となってしまうおそれも高く、実用的ではない。

【0008】さらに事象自体の時間管理を行う仕様になっていないため、毎年行われる年中行事であるにもかかわらず、ある年度は電報や花束を送付しているのに、ある年度には何も送付しない等の不整合が発生するおそれも残されている。

【0009】本発明は、上記問題点を解消するために、スケジュール作成時における事象漏れを防ぎ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールリングすることができる秘書業務支援システム及び方法を提供することを目的とする。

#### 【0010】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明にかかる秘書業務支援システムは、複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理する基本情報管理部と、基本情報に基づいて年中行事及び生涯イベントを自動的に生成・管理する年中行事管理部と、自動的に生成された年中行事及び生涯イベントを事象データベースに登録する事象データベース登録部と、新たに発生した事象を入力する新規事象入力部と、事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成するスケジュール生成部とを含む秘書業務支援システムであって、年中行事、生涯イベント、及び新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位を算出し、優先順位の高い順

に自動的にリスケジュールリングを行うことを特徴とする。

【0011】かかる構成により、予定されている事象に関して優先順位が高い事象から順にスケジュールリングすることができることから、秘書の手作業による重要な事象のスケジュール漏れを未然に回避することができ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールリングすることが可能となる。

【0012】また、本発明にかかる秘書業務支援システムは、優先順位決定のために必要となる情報に優先度を含み、優先度が高い事象から順にリスケジュールリングを行うことが好ましい。最も端的に優先順位を判断することができるからである。

【0013】また、本発明にかかる秘書業務支援システムは、優先順位決定のために必要となる情報に対応時間及び物理的条件をさらに含み、対応時間及び物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新することができることが好ましい。時間帯が重複している事象であっても、同時に対応可能な事象についてはスケジュールリング可能とするためである。

【0014】また、本発明は、上記のような秘書支援システムの機能をコンピュータの処理ステップとして実行するソフトウェアを特徴とするものであり、具体的には、複数人により構成される団体及び個人に関する情報及びカレンダー情報を含む基本情報を管理する工程と、基本情報に基づいて年中行事及び生涯イベントを自動的に生成・管理する工程と、自動的に生成された年中行事及び生涯イベントを事象データベースに登録する工程と、新たに発生した事象を入力する工程と、事象データベースを参照しながら予定スケジュールを自動的に生成する工程とを含む秘書業務支援方法であって、年中行事、生涯イベント、及び新たに入力された事象について、それぞれ優先順位決定のために必要となる情報を登録する優先識別データベースをさらに含み、優先順位決定のために必要となる情報に基づいて、新たに発生した事象が入力されるごとに優先順位を算出し、対応時間及び物理的条件によって所定の事象と同時に対応することができると考えられる事象については所定の事象よりも優先順位を高い順位に更新してから、優先順位の高い順に自動的にリスケジュールリングを行う秘書業務支援方法並びにそのような工程をプログラムとして記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体であることを特徴とする。

【0015】かかる構成により、コンピュータ上へ当該プログラムをロードさせ実行することで、予定されている事象に関して優先順位が高い事象から順にスケジュールリングすることができることから、秘書の手作業による重要な事象のスケジュール漏れを未然に回避することができ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールリングすることができる秘

書支援システムを実現することが可能となる。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムについて、図面を参照しながら説明する。図1は本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムの構成図である。図1において、1は基本情報管理部を、2は年中行事管理部を、3は事象データベース登録部を、4は新規事象入力部を、5は優先度決定部を、6はスケジュール生成部を、7はスケジュール出力部を、11は事象データベースを、12は優先識別データベースを、それぞれ示す。

【0017】まず、管理対象となる法人や町内会等に代表される複数人により構成される団体及び個人に関する基本情報について、事前に基本情報管理部1に登録しておく。ここでいう基本情報とは、複数人により構成される団体については、例えば設立年月日及び創立記念日や事業内容、決算期間等が含まれており、個人については、例えば生年月日や学歴、職歴、結婚記念日等が含まれている。また、カレンダー情報としては、祝日や休日、あるいはクリスマスや大安吉日等の特定のイベントが発生する日等に関する情報が含まれている。すなわち、複数人により構成される団体や個人にとって重要度の高い年中行事や生涯イベント等を自動的に定めるために必要となる情報を集約するものである。

【0018】そして、これらの基本情報に基づいて、年中行事管理部2によって、年中行事や生涯イベント等を自動的に生成して、事象データベース登録部3によって事象データベース11に保存しておく。事象データベース11に保存する場合、保存される年中行事や生涯イベント等は、他の事象と比べて比較的高い優先度を設定しておくことが好ましい。慣れが生じることによって、他の事象を優先しがちになるからである。

【0019】次に、何らかの新たな事象、例えば結婚式のスピーチ等の予定が生じた場合、秘書は新規事象入力部4から新たな事象として所定の事項を入力する。入力すべき所定の事項とは、事象の種類（結婚式）、内容（スピーチ）、予定日時、相手方、相手方の重要度、物理的条件、キャンセル困難度、キャンセル影響度等であり、これらの情報を入力画面から可能な限り入力することになる。入力手段としては、キーボードによる直接打鍵の他、マウス等によるプルダウンメニューからの選択や、タッチパネル操作等、特に限定されるものではない。

【0020】そして、優先度決定部5においては、新規事象入力部4から入力された事象に関する情報を優先識別データベース12と照合することによって、優先度の数値化を図ることで、新規入力された事象の優先順位を明確にすることができる。

【0021】具体的には、優先識別データベース12には、図2に示すように、各事象ごとの優先度、各事象の

相手方による優先度等の優先度加算事項のみならず、例えば当該事象を実行するための所要時間や事象の物理的条件等の優先度調整事項も登録されている。本実施の形態においては、優先度を「00」から「99」の数字で表示するようにしているが、特にこれに限定されるものではなく、事象の優先順位をユニークにできるものであれば何でも良い。

【0022】まず、事象を実行するための所要時間とは、例えば会合の最初だけ参加しておけば良い場合や、最後にだけ参加しておけば良い場合、あるいは話をする時のみ参加しておけば良い場合等、事情によって会合開催時間のすべてに参加している必要がない場合も考慮した必要最小限の被拘束時間を示すものである。

【0023】また、物理的条件とは、会合等の開催場所等を示しており、これによって次の事象が行われる場所までの移動時間を算出することができる。したがって、事象を実行するための所要時間と次の事象が行われる場所までの移動時間（前の事象が行われる場所までの移動時間も含む。）とを考慮することで、スケジュールを重複させる等の柔軟なスケジューリングをすることが可能となる。

【0024】例えば、図3に示すように事象A、事象B、事象Cが同一時間帯に設定入力されている場合を考える。ここで、事象Aは所要時間が2時間であり、優先度が「70」、ただし最初の10分間以外は同席する必要がないものとする。事象Bは所要時間が5分であり、優先度が「60」であり、かつ物理的条件として事象Aの開催地から車で10分の場所で開催されるものとする。事象Cは所要時間が15分であり、優先度が「50」であり、かつ物理的条件として事象Aの開催地から新幹線で2時間の場所で開催されるものとする。

【0025】したがって、単純な時間間隔によるスケジューリングでは、優先度の最も高い事象Aのみをスケジューリングし、事象B及び事象Cについてはスケジューリングすることができないことになる。

【0026】しかし、図4に示すように、事象Aにおいて参加が必要とされる正味時間は最初の10分間のみであり、事象Bの開催場所までは車で10分と比較的短時間であることから、たとえ事象Aよりも優先度が低くても、事象Bについてスケジューリングすることは可能であることがわかる。したがって、事象Bの優先度を「60」から「71」へと、すなわち対比の対象となる事象の優先度+1に自動的に更新することで、図4の事象Aを示す実線部分のように事象Aの最初の10分間のみ事象Aに参加し、その後事象Bに参加するようにスケジューリングすることで、事象Aだけでなく事象Bについても確実にスケジューリングすることができるようになる。

【0027】なお、かかる優先度の変更は、事象Aの日付までであり、事象Aの日付を超えた場合には事象Bの

優先度は元の優先度に戻すものとする。事象Bが年中行事である場合には、優先度の変更されたままでは翌年以降に適正な優先順位判断ができなくなってしまうおそれがあるからである。

【0028】一方、事象Cについても同様の考察が可能であるが、事象Cの開催場所までは新幹線で2時間と事象Aが終了した後でなければ到着できないことから、物理的条件によってスケジュール対象から排除されることになる。したがって、事象Cの優先度は現状のまま更新されることもない。

【0029】このような処理を、原則として加算方式でもって、すべての事象について行うことにより正味の優先度を算出する。そして、算出された優先度に基づいてスケジュール生成部6では、原則として優先度が高い順にスケジューリングを行い、スケジュール出力部7において自動的に生成されたスケジュールを出力表示する。出力表示の方法としては、表示装置の画面上での表示が一般的ではあるが、特にこれに限定されるものではなく、例えば印刷装置による紙へのアウトプットによるものであっても良い。

【0030】スケジュール生成部6では、事象データベース11も参照して、年中行事や生涯イベント等についても優先度に基づいてスケジューリングの対象とする。したがって、スケジュール漏れや他の事象とのダブルブッキングが生じることを未然に回避することが可能となる。

【0031】また、スケジュール出力部7における出力時には、スケジューリングの対象から排除された事象についても閲覧できるようにしておくことが好ましい。複数人により構成される団体や個人の基本情報の更新忘れ等によるスケジューリングの誤りを未然に回避することができるようにするためである。この場合、基本情報管理部1に保存されている基本情報を更新してリスケジュールを行うことによって、適正なスケジュールを生成・出力することができる。

【0032】以上のように本実施の形態によれば、予定されている事象に関する優先度を数値化して、優先度が大きい事象から順にスケジューリングすることができることから、秘書の手作業による重要な事象のスケジュール漏れを未然に回避することができ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールすることが可能となる。

【0033】次に、本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムを実現するプログラムの処理の流れについて説明する。図5に本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムを実現するプログラムの処理の流れ図を示す。

【0034】図5において、まず法人や町内会等に代表される複数人により構成される団体及び個人に関する基本情報を入力しておく(ステップS501)、年中行事

や生涯イベント等を生成して事象データベースに優先度とともに保存しておく(ステップS502)。

【0035】次に、新規事象を入力したら(ステップS503)、優先識別データベースを参照しながら当該事象についての優先度を算出する(ステップS504)。また、新規事象入力時に優先度調整事項が入力されているか否かを判断し(ステップS505)、優先度調整事項が入力されていたら(ステップS505: Yes)、算出した優先度を調整して新たな優先度に更新する(ステップS506)。

【0036】優先度が確定したら、事象データベースに保存されている年中行事等の事象も含めて、優先度の高い順にスケジュールを生成して(ステップS507)、生成したスケジュールを出力する(ステップS508)。出力されたスケジュールに不都合な点があり修正が必要と判断した場合には(ステップS509: Yes)、優先度の値を更新して(ステップS506)、再度スケジュールを生成することになる。

【0037】なお、本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムを実現するプログラムを記憶した記録媒体は、図6に示す記録媒体の例に示すように、CD-ROM62-1やフロッピー(登録商標)ディスク62-2等の可搬型記録媒体62だけでなく、通信回線の先に備えられた他の記憶装置61や、コンピュータ63のハードディスクやRAM等の記録媒体64のいずれでも良く、プログラム実行時には、プログラムはローディングされ、主メモリ上で実行される。

【0038】また、本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムにより生成された優先識別データベース等を記録した記録媒体も、図6に示す記録媒体の例に示すように、CD-ROM62-1やフロッピーディスク62-2等の可搬型記録媒体62だけでなく、通信回線の先に備えられた他の記憶装置61や、コンピュータ63のハードディスクやRAM等の記録媒体64のいずれでも良く、例えば本発明にかかる秘書業務支援システムを利用する際にコンピュータ63により読み取られる。

【0039】

【発明の効果】以上のように本発明にかかる秘書業務支援システムによれば、予定されている事象に関する優先度を数値化して、優先度が大きい事象から順にスケジューリングすることができることから、秘書の手作業による重要な事象のスケジュール漏れを未然に回避することができ、重複した事象が発生した場合であっても不整合を生じることなくリスケジュールすることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムの構成図

【図2】 本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムにおける優先識別データベースの例示図

【図3】 本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムにおける優先度算出の説明図

【図4】 本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムにおける優先度算出の説明図

【図5】 本発明の実施の形態にかかる秘書業務支援システムにおける処理の流れ図

【図6】 記録媒体の例示図

【符号の説明】

- 1 基本情報管理部
- 2 年中行事管理部
- 3 事象データベース登録部
- 4 新規事象入力部
- 5 優先度決定部

6 スケジュール生成部

7 スケジュール出力部

11 事象データベース

12 優先識別データベース

61 回線先の記憶装置

62 CD-ROMやフロッピーディスク等の可搬型記録媒体

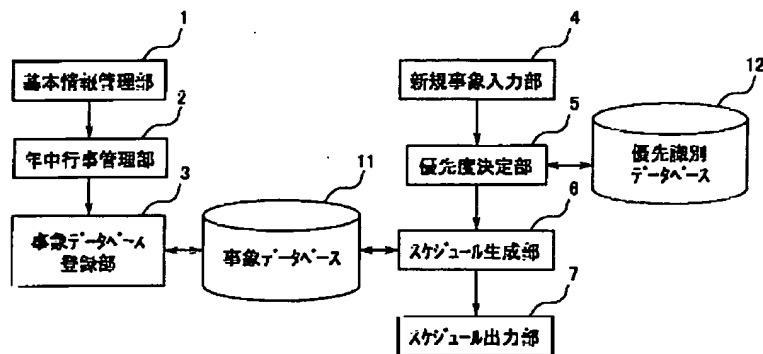
62-1 CD-ROM

62-2 フロッピーディスク

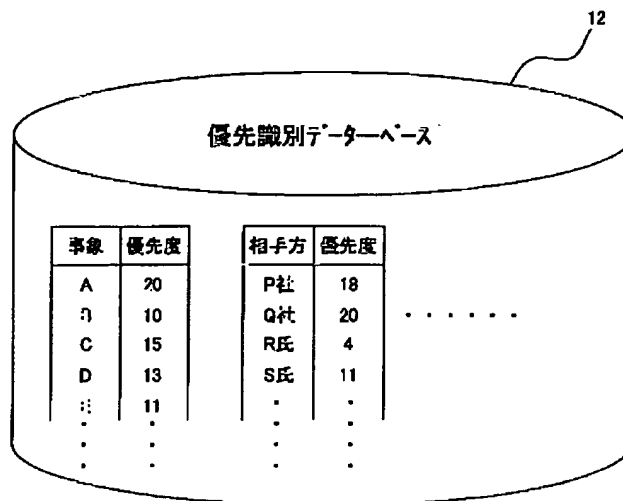
63 コンピュータ

64 コンピュータ上のRAM/ハードディスク等の記録媒体

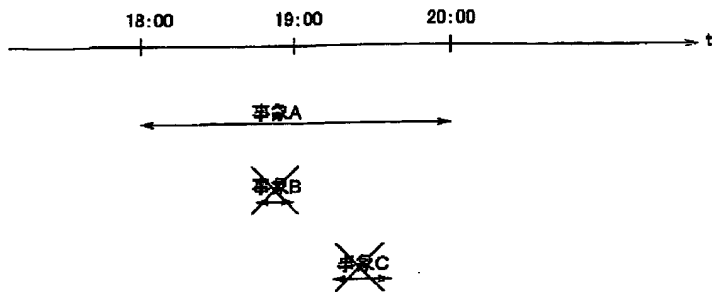
【図1】



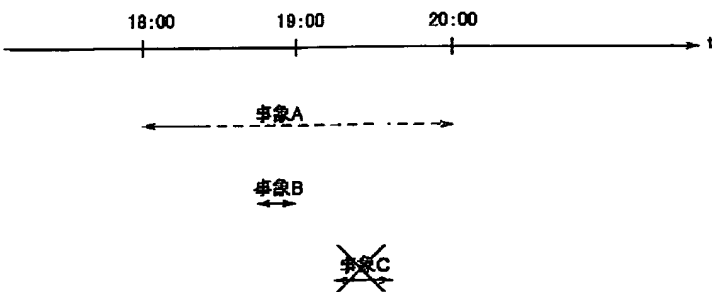
【図2】



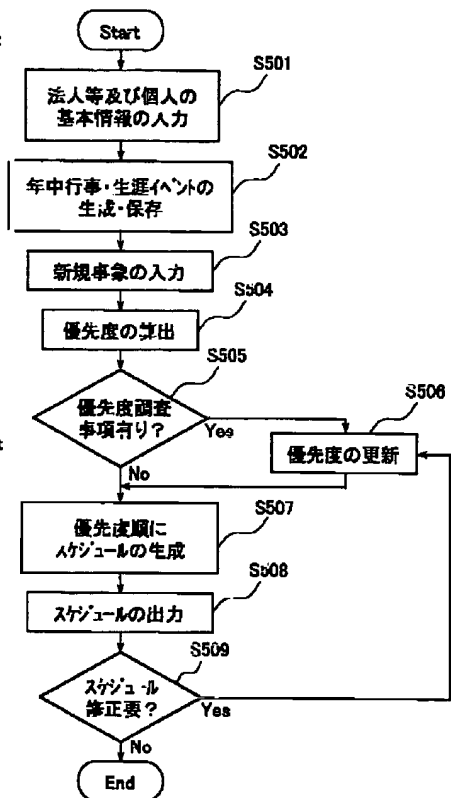
【図3】



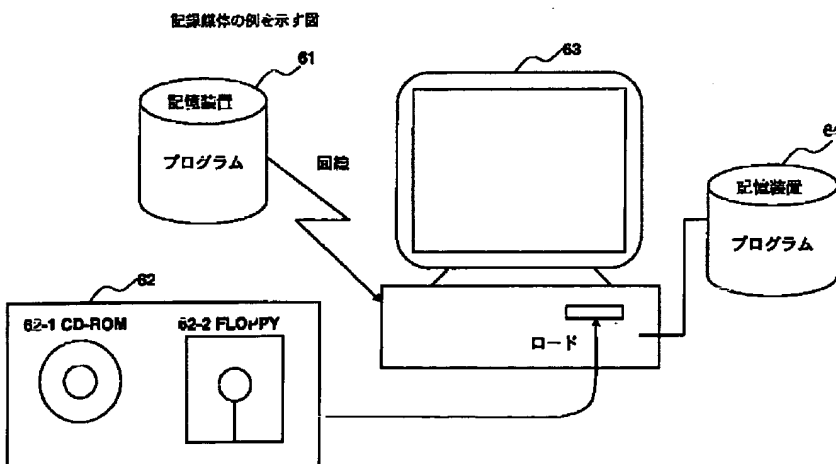
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

Fターム(参考) 5B075 KK07 KK13 KK33 KK37 MM11  
ND03 ND20 ND23 PQ00 PQ75  
PR08 UU08